

SA・TAからの一言

スポーツ共創で、新たな運動会種目をつくろう！

私は昨年、スポーツに関するプロジェクト科目に履修生として参加していました。そして今年度は、昨年のプロジェクト科目の経験を通して得た、学び・喜び・刺激と様々な想いを次の履修生たちにも繋げていきたいと考え、SAとして参加させていただきました。

始めはSAとして、昨年の経験から何を教えてあげられるかとばかり考えていたような気がします。しかし実際に授業を重ねていくと、私の方が履修生のみならず、そして先生方から吸収することの方が多かったです。

私は今回で昨年に引き続き2度、プロジェクトと関わりを持つ機会を頂きましたが、同じスポーツでも異なるメンバー、プロセスで作り上げる授業は、それぞれの個性を活かし、全く異なった成果を上げることができると実感しました。そしてなにより最後には4月と比べて自分たちの活動に自信を持った履修生へと成長していることがプロジェクトの大きな魅力だと再認識しました。

履修生、またSAとしてと、2度違った形でプロジェクトと関わりを持ってた経験は私にとってとても貴重なものでした。ありがとうございました！

グローバルビレッジを撮る・観る・創る —ドキュメンタリー映画制作を通して見つめる京のムスリムと多文化共生

このプロジェクトは他とは違って春学期のみの開講科目でした。約4ヶ月という短い期間で取材、撮影、編集をすべて終わらせ、映画を完成させる必要がありましたので、履修生は本当に大変だったと思います。しかしどの班も完成度の高い映画を制作できており、7月19日に行なわれる上映会が楽しみです。私は主に成果報告会のポスターやセッションのアドバイスをしました。ただでさえ履修生は映画制作に忙しいのに、成果報告会でムスリムをもっと広めるといった目的を持ってしっかり準備する姿勢に私は感動し、少しでも役に立ちたいと思いました。「グローバルビレッジ」という正解のない課題に全員で取り組んだことは今後の履修生の人生に大きく影響してくるでしょう。これからの活躍を期待しています。本当にお疲れ様でした。

留学生と創る！！「Cool Japan 和食職人文化読本」制作プロジェクト(伝統文化継承など今日的課題の観点から)

私は履修生として1年、SAとして1年、合計2年間プロジェクト科目に携わりました。履修生としてプロジェクトを終えた時の率直な気持ちは「もう1年やりたい。」でした。そこで、「SAとしてサポートすることで、昨年度を超えるプロジェクトを作り上げる」という目標を立て、SAになりました。その目標の通り、今年度のプロジェクトは昨年度を上回る出来になりそうです。それが達成できたのは、今年度の履修生の思いの強さがベースにありながらも、様々な人との繋がりがあってこそだと思います。私が2年間プロジェクト科目に携わって感じたのは人との繋がりの偉大さです。昨年度、今年度の履修生、科目代表者、科目担当者、協力してくださった全ての方々に感謝しております。ありがとうございました。

クラシック音楽のコンサートを創ろう！ ～クラシック音楽業界の抱える課題にチャレンジ！～

昨年度は履修生、本年度はSAとしてプロジェクト科目に関わらせていただきました。

この2年を振り返って改めて、プロジェクト科目を通じて学んだことは学生時代の大きな財産になったと感じます。一見失敗に思えることも、見方を変えれば新しい問題解決の糸口になるということを履修生と体感し、柔軟な発想と視野を広く持つことの重要性を学びました。

そして私が今回のSAの活動の中で最も大切にできたことは、履修生が核心に近づくためのサポートに影で徹するという点です。人数が少ない中で、彼女たちがより重要な作業に集中できるよう、環境を整えるという形で積極的に支援を行いました。特に後半になるにつれて履修生と密にコミュニケーションを取ることが増えたため、一生懸命に頑張る履修生が困難を乗り越え企画を成功させた姿に私も非常に嬉しくなったことを鮮明に覚えています。本当にお疲れさまでした。

最後になりますが、このような素晴らしい機会とご縁を与えてくださいました履修生、先生方に厚く御礼申し上げます。本当にありがとうございました。

メディアを活用した歴史まちづくり観光 (宇治市をフィールドに)

一年間、TAとして参加させていただきました。履修生は8名と少人数ながらも、3グループに分かれて宇治茶にまつわる映像作品を3点制作し、上映会を二度開催したことは全員の協力なくしてはなし得ないことでした。

この一年を振り返ると、成功の傍らで多くの失敗があり、履修生の皆さんも実行錯誤を繰り返してきたと思います。私自身も未熟でサポートしきれなかった点が多々ありご迷惑をおかけしました。しかし、私はそのような失敗の経験から学ぶことができるのも、プロジェクト科目の良いところだと考えています。本科目で成功・失敗したこと、全てが次に活かせる大切な経験だと気づくことができました。

最後になりましたが、森田先生、井口先生、履修生の皆さん、そして事務局の皆様をはじめ、支えてくださった皆様に深く感謝いたします。ありがとうございました。

地域課題解決に資するコミュニティカフェの デザイン

「居場所」や「地域コミュニティ」は、公共政策では手が届きにくい「一人一人に寄り添う」課題解決の糸口として注目を集めています。これからの時代に求められる公共政策の要素が、CCには詰まっていると思います。

今年のメンバーは、「子どもと親のコミュニケーション」を切り口に、Oyako.comというCCをデザインしました。上京区の親子が抱える地域課題を、何度も議論を重ね、イベントとして実装し、地域の声に耳を傾け、デザインに組み込んできました。

私は1年間TAとして見守ってきましたが、メンバーの皆さんは最も基本的な「現場に出て、一人一人に耳を傾け寄り添う姿勢」が、この授業を通じて身に付いたと感じました。

このプロジェクトを通じて得た苦労や経験は必ず糧になります。自信を持って、これからの道を歩んで下さい。1年間、本当にお疲れ様でした！

京都発！「子育て×働く」のリアルを追求する、キャリア教育探求プロジェクト～ワーク&ライフ・インターン～

履修生の皆さん、一年間お疲れ様でした。私は一年間、SAとしてプロジェクトに対する皆さんの取り組みを見せていただきましたが、最初の段階から、真面目にプロジェクトに取り組んでいて、とても感心していました。プロジェクトを進めていくにつれて、皆さんのプロジェクトに対する意識がますます高まっていき、その意識の高さがこちらにも伝わってきました。プロジェクトに対する意識が高くなる分、大変なことや苦戦したことはたくさんあったと思います。しかし、全員がそれぞれの役割を把握し、自身の役割をしっかりとこなしながらも互いに支え合っていたので、多くの壁を乗り越えられたのではないかと思います。最後になりますが、一年間本当にお疲れ様でした。この経験を胸に、皆さんが新たな場で活躍することを期待しています。

京都・伏見で酒蔵ツーリズムのしくみをつくる

履修生の皆様。1年間お疲れ様でした。

最初は伏見ってどこ？日本酒って何？の状態でした。春学期は講師を招き、フィールドワークを行い、インプットを中心に我々がこれから伝えるものについて学びました。

秋学期は実際に学んだものを形にしました。企画の段階ではなかなかツアーのコンセプトがまとまらず、皆で膝突き合わせて議論していたのが印象的でした。ツアー当日も大変でしたが、工夫を重ねて参加者・履修生ともに楽しめていたようで良かったです。

このプロジェクトを通して、学ぶだけではなくそれを伝えることの難しさと楽しさを学べたと思います。そして「伏見でつくろう酒と縁」のテーマの通り、様々な年齢の参加者、そして履修生が共に学び、交流しました。

伏見でつくった"ご縁"が今後も大きく広がることを期待します。

「多様性が拓くみらいを考える」プロジェクト～公開フォーラム開催を通じて多様な個性が生きるチームづくりと対話型リーダーシップを学ぶ～

私は本プロジェクトに秋学期よりSAとして参加させて頂きました。春学期にはほかのプロジェクトでSAを経験させて頂き、今回で2回目ではありましたが、何度やってもSAという立場で何をすべきか答えを出すのは難しいものでした。

しかしプロジェクトの経験から学んだことは数えきれない程あります！今回のプロジェクトではチームづくりと対話型リーダーシップを学ぶという目的のために履修生の皆さん、また私自身もまずは自分自身を知ることが大切にしていました。私自身、本プロジェクトに参加するまで自分自身を分かったつもりでしたが自分の考え、性格、感情を人に伝えるように言語化できる履修生の皆さんから自分の考えを口に出すことの大切さを教えていただきました。

私は様々な立場で2年間のプロジェクト科目への参加でできるようになったと胸を張って言うことはまだ少ないですが、できるようになりたいと思うことは多くうまれました。これはプロジェクトを通しての経験や、出会いがないと生まれなかったものだと思います。

様々な立場からプロジェクトに関わる機会を頂けたこと感謝しています。履修生の皆さん、先生方、事務局の方々大変お世話になりました！そしてありがとうございました！